米国

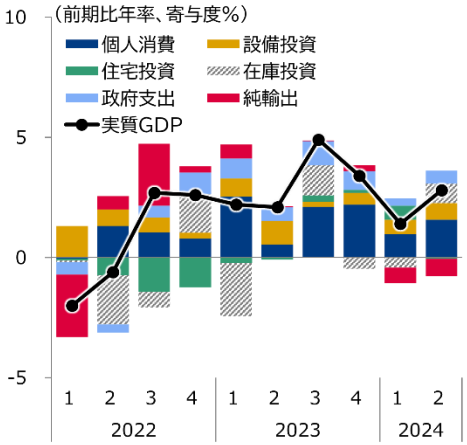
GDP（2024年4-6月期、速報値）

内需は堅調維持、先行き米経済はソフトランディング（軟着陸）へ

政策・経済センター
淺井優汰
03-6858-2717

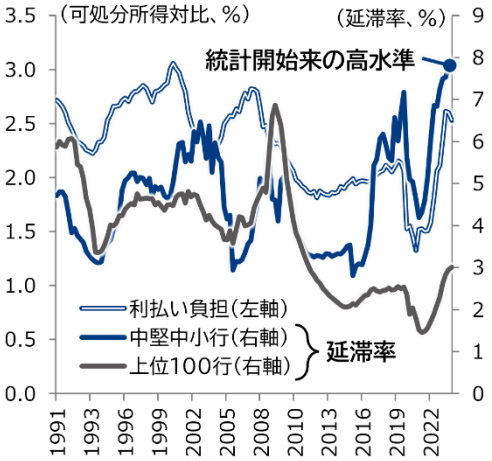
1 実質GDPおよび需要項目別の伸び率（前期比年率）

（前期比年率、%）	2023年			2024年	
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6
実質GDP	2.1	4.9	3.4	1.4	2.8
個人消費	0.8	3.1	3.3	1.5	2.3
設備投資	7.4	1.4	3.7	4.4	5.2
住宅投資	▲ 2.2	6.7	2.8	16.0	▲ 1.4
在庫投資（寄与度）	0.0	1.3	▲ 0.5	▲ 0.4	0.8
政府支出	3.3	5.8	4.6	1.8	3.1
純輸出（寄与度）	0.0	0.0	0.3	▲ 0.7	▲ 0.7
輸出	▲ 9.3	5.4	5.1	1.6	2.0
輸入<控除>	▲ 7.6	4.2	2.2	6.1	6.9



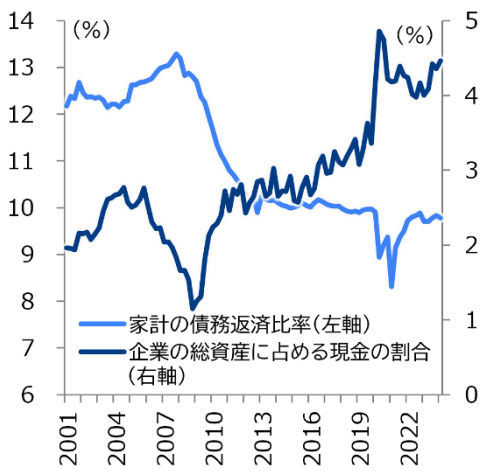
注：左図背景色はGDP寄与度を示す。赤/青が濃いほど押上げ/下げ寄与が大きい。出所：米国商務省より三菱総合研究所作成

2 家計の利払い負担、クレジットカードローン延滞率



注：利払い負担は可処分所得対比。
出所：米国商務省、FREDより三菱総合研究所作成

3 家計の債務負担、企業の総資産に占める現金の割合



出所：FRBより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 24年4-6月期の実質GDP成長率（前期比年率、速報値）は+2.8%（前期：同+1.4%）と伸びが拡大した（図表1）。
- 内訳をみると、個人消費が前期比年率＋2.3%（前期同+1.5%）、設備投資も同＋5.2%（前期同+4.4%）と伸びが拡大、内需の堅調さが示された。
- 同時公表の物価統計をみると、コアPCE物価は前期比年率+2.9%と前期（同+3.7%）から伸びは鈍化、インフレ圧力は緩和傾向にある。

基調判断と今後の見通し

- 米経済は堅調さを維持している。需要の基調を示す国内最終需要は前期比年率+2.7%（前期同+2.4%）と高成長を続けた。
- もっとも、7月入り後に発表された米経済指標は、成長鈍化を示すものが増えている。7月のISM製造業は、好不況の分かれ目である50を4カ月連続で下回ったほか、7月の失業率は4.3%と2年半ぶりの高水準に達した。
- 先行き、米経済はソフトランディング（軟着陸）に向かうと予想する。信用環境の悪化を受け、低所得層を中心に支出抑制の動きが続き、24年後半の成長率は潜在成長率（前年比+2%程度）を下回るとみる。それでも、米国全体での雇用・所得環境が底堅さを維持することで、大幅な減速を回避するだろう。
- コロナ禍で貯まった超過貯蓄の払底に加え、長引く金融引き締めが低所得層の信用環境を悪化させる。可処分所得に占める利払い費はコロナ危機前を上回る。低所得層の利用が多い中堅・中小行のクレジットカードローン延滞率は直近で7.8%と統計開始来の高水準であり（図表2）、追加支出余地は乏しい。
- 一方、下支え要因となるのが底堅い雇用・所得環境だ。米企業は過去の人手不足の経験を踏まえ、解雇ではなく労働時間短縮などを通じて雇用調整を図る傾向を強めている。堅調な業績を背景に、企業の現金残高は高水準で推移しており、雇用の急悪化は回避可能とみる。また、米全体で見た家計の債務負担はコロナ危機前を下回っており（図表3）、消費も底堅さを維持するだろう。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.